

FVI「声なき者の友」の輪
Friends with the Voiceless International



2013年 冬号

URL : <http://www.karashi.net/>

「落ち穂」を残す生き方を

ルワンダの虐殺事件から早くも 20 年が経とうとしています。あの事件直後の混乱のさなかで緊急の食料配給を手伝う機会がありました。強い力のある者たちは先頭に立って我先に食料を入手しようとします。弱い者や臆病な者は後回しにされ、ひどい場合には何ももらえないことすらあります。少しでも公平に分配しようとする弱者や子供には特別な配慮をする必要がありました。

この罪深い世では、とかく力のある者たちが優遇され、弱者は顧みられず放置されてしまう傾向があります。この方々に配慮して生きることが「落ち穂」を残す生き方です。

慈悲深い神は、イスラエルの民をエジプトから救出したモーセを用いて、イスラエルの農民たちが慈愛深い神の心を生きるようにと語られました。旧約聖書レビ記 19 章には次のように記されています。「あなたがたの土地の収穫を刈り入れるときは、畑の隅々まで刈ってはならない。あなたの収穫の落ち穂を集めてはならない。またあなたのぶどう畑の実を取り尽くしてはならない。あなたのぶどう畑の落ちた実を集めてはならない。貧しい者と在留異国人のために、それらを残しておかなければならない。」

現代社会における「落ち穂」とは何でしょうか。もちろん少額の献金を貯めて世界で貧困に苦しんでいる方々のために使うことも続けていただきたいことです。しかしそれ以上に現在求められていることは「弱者の友となる生き方」ではないでしょうか。効率を優先する競争社会で流れについていけなくなった方々の存在も忘れてはなりません。仕事仲間が苦しんでいたら寄り添い、子育てに行き詰っているお母さんがいたらちょっとした手助けをしてあげたり、臆病な子供がいたら特別に配慮してあげたりする友になっていただきたいのです。

「声なき者の友」の輪 神田英輔

* FVIの働きは皆さまからのご支援に支えられているカタリストによって担われています。献金をもって各カタリストをご支援くださる際には、振り込み用紙に「神田指定」などとカタリスト名をご明記ください。